



© Vincenzo Livieri

自分で栄養治療食が食べられるまでに回復した1歳のムッサちゃん、MSFのスタッフ。／2020年シエラレオネ

特集
1

6秒に1人、失われる命。 栄養失調の子どもたちを守る

特集
2

全てが足りない！ 過酷を極める
南スーダンでの洪水被害

【連載】

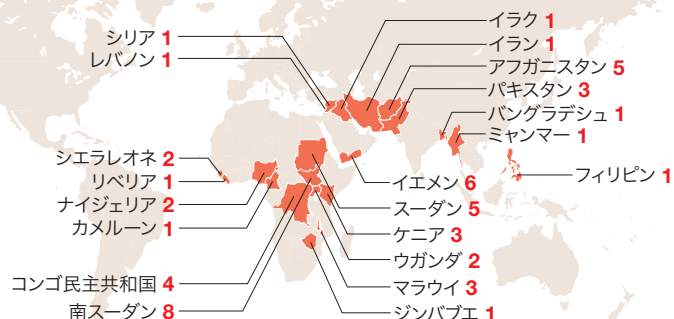
「助けたい」その思いをつなぐ
こころの手紙

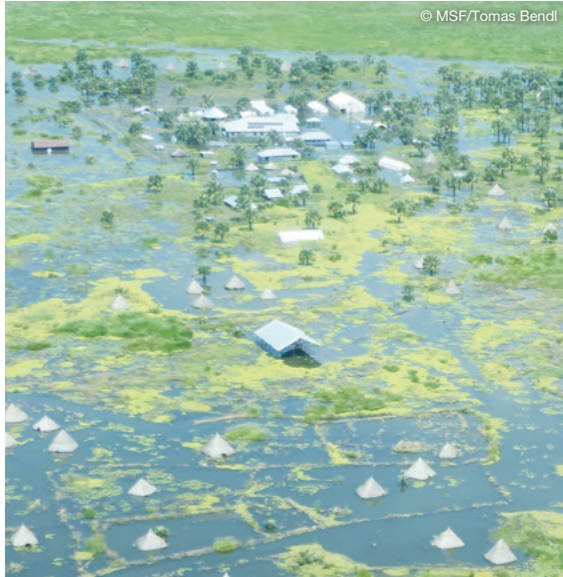
【オンラインイベントのお知らせ】

「いとうせいこうさんと迫る、
世界—新しい国 南スーダンのいま」

日本からのスタッフ派遣状況

21の国と地域 53人(2022年2月21日現在)





大洪水で水没した家々。ベンティウを州都とするユニティー州は最も大きな被害を受けた。

国内最大の避難民キャンプを有するベンティウ。南スーダンではこれまで幾度となく洪水に見舞われてきましたが、昨年は過去数十年で最も深刻な被害がこの地域で発生。家を失った住民が避難民キャンプに一斉に逃れたことから、収容人数をはるかに超える15万2000人もの人が

過去数十年で最も深刻な被害に孤立を深める人びと

マラリア患者が急増
重度栄養失調児も2倍に

洪水の影響で排泄物がトイレからあふれ、清潔な水も食糧も全てが足りない避難民キャンプ内では、マラリアや栄養失調などの患者が急増。「MSFの病院に重度の栄養失調で入院する子どもの数は、洪水前の2



マラリアの検査を受ける赤ちゃん。

倍にもなっています」と、緊急医療マネージャーのジェイコブ・ゴールドは顔を曇らせます。
MSFは膨大な医療ニーズに応えるため、緊急チームを追加派遣。移動診療の強化や、水と衛生設備の専門家によるトイレの修理や汚物の吸引など、衛生面の改善にも取り組んでいます。

特集2

全てが足りない！

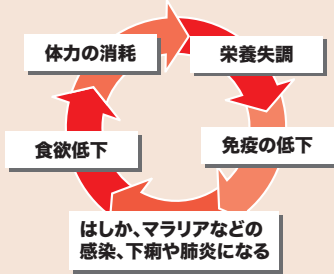
過酷を極める南スーダンでの洪水被害

紛争によって繰り返される暴力から逃れ、避難民キャンプに身を寄せる人びと。大洪水によってさらに困窮する南スーダン北部のベンティウでの対応をお伝えします。

とが劣悪な環境下での生活を強いられています。

子どもたちの命と未来を奪う 栄養失調とは？

成長期に必要な栄養を摂取できないと、子どもの一生に深刻なダメージを与える可能性があります。

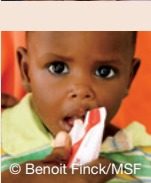


栄養失調と感染症などの疾病は、互いに悪循環を起こす関係にあります。この危険なサイクルを食い止め、子どもたちの命を明るく未来へつなぐためには、何より早期の治療が重要です。

一刻も早く！ 必要な栄養を。 MSFが行う5つの治療ステップ

さまざまな国際機関が栄養失調の問題に取り組む中で、MSFの主な役割はより緊急性の高い子どもたちへの対応です。その治療ステップをご紹介します。

- Step 1 「命のうでわ」で栄養失調の水準を把握
- Step 2 栄養強化ミルクで体調を安定させる
- Step 3 「RUTF※」の摂取で栄養状態を改善
- Step 4 食欲テストを行い退院の可否を判断
- Step 5 通院しながら、栄養治療を継続



栄養失調がどれくらい深刻か、それを瞬時に判断できるのが生後6カ月から5歳の子どもの上腕に巻きつけて測る「命のうでわ」です。重度の子どもはすぐに入院し、24時間体制で集中的な栄養のケアと、合併症などの治療を受けます。栄養強化ミルクは1日8回に分けて取る必要があり、体調が安定してきたらペースト状の栄養治療食「RUTF」に切り替えます。退院後も通院を続けてもらい、回復を見守ります。

※RUTF：Ready-to-Use Therapeutic Foodの略称

ウェブサイトでは、さらに詳しい
特集記事を公開中です。ぜひご覧ください。

スマートフォンから▶



一丸となってより多くの
子どもの未来をひらく

とはいえ、栄養失調の撲滅はMSFだけでは実現できません。昨年開催された「東京栄養サミット2021」では各国政府や国際機関などが集まり、さらに取り組みを強化することが合意されました。

※2 『The State of Food Security and Nutrition in the World 2021』

特集1

6秒に1人、失われる命。
※1
栄養失調の子どもたちを守る

いま世界で、6秒に1人、5歳未満の子どもが命を落としています。その原因の多くに栄養失調が関わっています。厳しい状況下にある地域の栄養失調の現状と、国境なき医師団(MSF)の取り組みをご紹介します。

コロナ禍で加速する
さらなる状況の悪化

2021年、世界では4500万人※2の5歳未満の子どもの命に関わる急性栄養失調に苦しみました。さらに発育不良にある子どもは1億4900万人※2余り。要因としては貧困や季節的な食糧不足に加え、最近では紛争や異常気象、またコロナ禍による経済の悪化などが複雑に絡み合い、子どもたちを窮地に追い込んでいます。

栄養失調は本来、早期の治療によりほとんどが回復します。しかし成長過程にある子どもは、成人と比べて体が必要とする栄養素が多く、免疫などの機能も十分ではありません。そのため早期に治療ができない場合、命の危険はもちろん、他の病気を併発したり、生涯にわたって心身に影響が及ぶこともあります。

座って食べて笑った！
つながれた命の希望

MSFは、世界のさまざまな国と地域で、子どもたちの栄養



干ばつで食糧不足にあえぐマダガスカル砂漠地帯。一日かけてやっと拾い集めたサボテンの実、手に入る最後の食べ物の一つだ。

治療に当たっています。度重なる武力紛争により100万人以上の避難民が身を寄せる、ナイジェリア北東部の都市マイドゥグリも、その一つです。「私が最初に3歳のハウワちゃんを見た時、彼女の意識は既にありませんでした。体は骨と皮だけ。ひどい栄養状態で、感染症も併発していました。



元気を取り戻したハウワちゃんと、MSFの小児科医アレクサンドル・ブブリッツ。

集中治療室で懸命に治療が続けましたが、彼女が目を開ける気配はありませんでした。MSFの病院には毎月400人ものこうした栄養失調の子どもが運び込まれてきましたが、全ての命を救えるわけではありません。幸いハウワちゃんは快方に向かい、数日後には座って食事を取り、笑顔を見

※1 5歳未満児死亡数520万人『Levels and Trends in Child Mortality 2020』(国連児童基金)

MSFが栄養治療を行った国の例
チャド、ニジェール、アフガニスタンなど



皆さまのおかげで
できたこと

(2020年)

6万4300人の
栄養治療

「助けたい」その思いをつなぐ こころの手紙

国境なき医師団(MSF)には、世界中での活動を通して、数々の出会いがあります。皆さまや患者さん、スタッフの「あの国へ伝えたい」という思いを、お手紙でご紹介します。

“心に金メダルを持って”

MSFの皆さんへ

それぞれの地で一生懸命生きている方々と、それを命がけで支えるスタッフの皆さんには、オリンピック選手のようなメダルはないかもしれませんが、どうぞ心に金メダルを持って頑張っていたいただきたいと思います。
わずかな支援しかできませんがいつもお祈りしています。

支援者 福本 優子様(沖縄県)

「こころの手紙」を特集したページができました！ 温かい思いがたくさん詰まったお手紙をどうぞお読みください。



スマートフォンから▼



ご案内 ウェブサイトをリニューアルしました。



スマートフォンから



www.msf.or.jp へぜひアクセスしてください！

迫力のビジュアル、特集ページを新設

世界中の活動地のいまを、迫力ある画像でリアルに伝えます。さまざまなテーマを深掘りする「特集」ページも新登場！

一目で分かるイベント情報

講演会や海外派遣スタッフ募集説明会など、これから開催するイベントの情報を一覧でご紹介します。過去のイベント動画も！

どのページからも行きたい情報へ

「遺贈について知りたい」「ボランティアをしたい」「あの国の活動を知りたい」など、お探しの情報にすぐアクセスできます。



寄付者さまの声をご紹介します

支援を始めたきっかけや、MSFに託して下さる思いとは——。活動を支えて下さる皆さまのお声を紹介するページが新しく出来ました。仲間の声をぜひご覧ください！

ニュースレター ACT! 2022年4月号

発行元
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報 に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料 平日9:00~18:00 / 土日祝日、年末年始休業

※ご住所に変更がある場合は、上記までご連絡ください。
※新型コロナウイルス感染症対策により、場合によっては寄付によるお手続きや領収書の発行といった、事務対応に遅延が発生する可能性があります。何卒ご了承くださいようお願いいたします。

遺贈 に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通 平日10:00~17:00 / 担当: 荻野、今尾

国境なき医師団は、世界約70の国と地域で活動する、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕した人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。
年次活動報告書 www.msf.or.jp/publication/annualreport/

今号の『ACT!』の感想をお寄せください

●締め切りは2022年5月末日です。

WEB <https://form.run/@act-2204>

スマートフォンから▶



生中継！ オンラインイベントのお知らせ

「いとうせいこうさんと迫る、
世界—新しい国 南スーダンのいま」

4月24日(日) 16:00~17:15

2018年に南スーダンを訪問取材したいとうせいこうさんと、現地で活動中のMSFスタッフが、南スーダンのいまと現地での活動の様子を中継でご紹介します。



© Shid Yahiro



© MSF

© MSF

●登壇者：いとうせいこうさん(作家・クリエイター) / 土岐翠(助産師) / 西野恭平(疫学専門家) / 吉田幸治(アドミニストレーター・資金調達部長)

詳細とお申込みはこちらから
www.msf.or.jp/event/

スマートフォンから▶

